

高大連携カリキュラムの研究

国語科 植田 敦子

附属高校が大学と連携して行っている「高大連携カリキュラム」で、具体的に国語科ではどのようなことを行っているのかを、第49回全附連高等学校教育研究大会国語分科会で発表した。なお、本カリキュラムは、お茶の水女子大学の荻原千鶴氏、浅田徹氏、及び附属高校の荻原万紀子氏、渡辺康英氏との共同研究開発であり、私植田が発表の機会をいただいたものである。本紀要には、発表の際に用いた資料のうち、本カリキュラムの実際がわかるものを転載し、説明を加えておく。

本カリキュラムの具体的な内容としては、主に

- (1) 大学の先生の授業
- (2) 古文・漢文…テーマを意識した時系列の授業内容
現代文分野もテーマを意識した教材選択
- (3) 年間2回のレポート作成、発表
- (4) 読書ノート

の4つが挙げられる。資料はそれらの詳細がわかるものを示している。

〈資料〉

- | | |
|--------------------------------|------------|
| 1 「教養基礎プログラム」について | 資料① |
| 2 年間授業計画表（第1学年、第2学年）
（第3学年） | 資料②
資料③ |
| ※ なお、資料③は、今回新たに加えた資料である。 | |
| 3 レポートについて（夏休み課題レポート） | 資料④ |
| （学年末レポート） | 資料⑤ |
| （生徒 テーマ一覧） | 資料⑥ |
| 4 読書ノート | 資料⑦ |
| 5 評価（調査項目） | 資料⑧ |
| （生徒回答1～7） | 資料⑨ |
| （生徒回答8記述） | 資料⑩ |

※ なお、附連研発表の際に配布した資料「お茶の水女子大学附属高等学校 教育課程」（カリキュラム表）と「お茶の水女子大学附属高等学校 教育課程」（各教科の目標・内容／国語）は、今回の資料から省いている。

1 「教養基礎プログラム」について

(お茶の水女子大学附属高等学校HPより引用)

http://www.fk.ocha.ac.jp/users/chako/koudai_kyoyou.htm

国語・数学・英語の3つの教科を中心に、高校と大学の教員が連携して研究・開発して行う授業。通常の高校教育課程に基づきつつ、各教科の内容を深化・発展させ、基礎的な力の育成と、広く深い教養による思考能力の育成をめざすものです。時々、大学の先生による授業もあります。3教科の具体的な目標と内容は以下の通りです。

【国語】※国語科のみ掲載

テーマに即した多読と表現活動の重視により、日本語運用能力の開発と、自律的個人としての成長を図ることを目標とする。

- ・作品を大量に読むことを通じ、日本語の文章（古文・漢文・現代文）の読解能力を育成する。
- ・学年ごとにテーマに即した作品を数多く読むことにより、体系だった具体的な知識と展望を身につけさせる。

① 学年ごとのテーマ

1年 歴史のうねりと社会

2年 女性・人生

3年 文化

② 古典に関しては時系列に沿って学習を行う。

- ・レポート作成・発表等の表現活動を通して、調査・研究的態度と論理的思考能力、および国語表現能力を育成する。
- ・音読・朗読等を通して、音声言語による自己表出の意識を涵養するとともに、読解能力を養う。

2 年間授業計画表(1)

授業年間計画表 (2006年度)

2006年度 1年 授業年間計画表 (単元・教材・内容等)

	国語総合 (現代文)	国語総合 (古文)	国語総合 (漢文) / 国語表現 / 大学・講師の授業	
			国語総合 (漢文)	国語表現 / 大学・講師の授業
4月	赤瀬川源平「古典への路上の 近道」 立花隆「謎の空白時代」	宇治拾遺物語「檢非違使忠明」	漢文入門、返り点 守株・杞憂 論語 (学而時習之、志学)	
5月	内山節「自然と人間の関係を通 して考える」	宇治拾遺物語「絵仏師良秀」	論語 (苛政猛於虎、子貢問政、 葉公語)	手紙の書き方
6月	芥川龍之介「羅生門」	十訓抄「大江山」	臥薪嘗胆	荻原先生 万葉集 荻原先生 古事記
7月	井伏鱒二「黒い雨」 太宰治「津軽」	竹取物語「なよたけのかぐや 姫」 1学期 文語文法 用言	再読文字、返読文字	菅先生 小説
8月				
9月	真木悠介「草の言葉、魚の言 葉」	伊勢物語「東下り」		レポート班発表、クラス発表 作文 (女性と仕事の未来館) 浅田先生 古今和歌集
10月	詩 (中原中也、宮沢賢治他)	伊勢物語「渚の院」 土佐日記「馬のはなむけ」	孟子 (五十歩百歩・何必曰利) 老子 (大道廢) 莊子 (渾沌・夢胡蝶)	高山先生 朗読 (外部講師)
11月	山崎正和「サイボーグとクロ ーン人間」	大鏡「花山院の出家」 「道長・伊周の競射」	漢詩 (桃夭、贖鼠、賁子送元 二使安西、早発白帝城、登岳 陽樓、江雪)	学年レポート発表 レポート返却・学年末レポ ートについて 和田先生 漢詩
12月	司馬遼太郎「文明の電源」	2学期 文語文法 助動詞	十八史略 (鶏口牛後) 史記 (鴻門の会)	
1月	近代短歌 (正岡子規、与謝野 晶子、石川啄木)	平家物語「木曾の最期」	史記 (四面楚歌、項王最期) 三国志 (乱世之姦雄)	
2月	池内了「もろともに宇宙の微 塵となりて」	方丈記「ゆく川の流れ」 「安元の大火」	三国志 (三顧の礼、泣斬馬謖)	浅田先生 徒然草
3月	鴨下信一「古典は耳で味わう もの」	蘭学事始「フルヘッヘンド」 3学期 文語文法 助動詞・ 助詞		クラスレポート発表

2006年度 2年 授業年間計画表 (単元・教材・内容等)

	現代文	古典(古文)	古典(漢文) / 国語表現 / 大学・講師の授業	
			古典(漢文)	国語表現 / 大学・講師の授業
4月	須賀敦子「クレールという女」	古事記「サホビコ・サホビメ」 伊勢物語「筒井筒」	呂氏春秋「知音」 十八史略「管鮑之交」	要約練習 山本健吉「古典と現代文学」
5月	清岡卓行「手の変幻」 吉本ばなな「みどりの指」	伊勢物語「芥川」 「つひにゆく道」(紹介のみ) 大和物語「嫉捨」	史記「晏子之御」 十八史略「先從隗始」	意見文
6月	山田詠美「ひよこの眼」 長谷川真理子「コンコルドの誤り」	蜻蛉日記「なげきつつ」 枕草子「中納言参り給ひて」	史記「完璧」 「刎頸之交」	
7月	志賀直哉「濠端の住まい」	枕草子	孟子「性善」「四端之説」 「蒙求」「孟母三遷」 莊子「曳尾於塗中」	
8月				
9月	高階秀爾「日本人の美意識」	源氏物語「桐壺」 「若紫」		クラスレポート発表 作文(女性と仕事の未来館) 大塚先生 宮沢賢治
10月	詩(石垣りん、茨木のり子)	更級日記「門出」 助詞テスト	莊子「莊子妻死」 西京雜記「王昭君」	浅田先生 新古今和歌集
11月	丸山真男『『である』ことと『する』こと』 夏目漱石「こころ」	堤中納言「虫めづる姫君」	後漢書「糟糠之妻」 杜子春	菅先生 たけくらべ
12月	同上	建礼門院右京大夫集「この世のほか」	杜子春	
1月	柳翠桂子「病と科学」 俳句(正岡子規、高浜虚子、 杉田久女 等)	徒然草「あだし野の露」「九月二十日、雪のおもしろう降りたるに、花は盛りに」	唐詩 杜甫「月夜」 李白「子夜吳歌」他	市古先生 西鶴
2月	鷺田清一「自由の制服」	風姿花伝 奥の細道「旅立ち・平泉」	李白「春夜宴桃李園序」 韓愈「雜説」	
3月	上野千鶴子「個性神話のパラドックス」	雨月物語「吉備津の釜」	白居易「長恨歌」	

2007年 3年 授業年間計画表(単元・教材・内容等)

	現代文	教養基礎「古典読書」A	教養基礎「古典読書」B
4月	大江健三郎「シンガポールのゴム まり」	古事記 漁父辞 土佐日記	茂木健一郎「ひらめき脳」 斎藤美奈子「アニメのヒロイン像」 研究テーマについて
5月	黒崎政男「ゆらぐ科学のリアリテ ィー」 加藤尚武「世代間倫理としての環 境倫理学」	論語 伊勢物語 孟子	内田樹「ことばとは何か」 更級日記 日本永大蔵
6月	日野啓三『『市民』のイメージ』	落窪物語 荘子 源氏物語	中間発表第1回 日本永大蔵 他
7月	多和田葉子「靴」 志望動機の書き方	墨子	マインドマップ作成
8月			レポート作成
9月	星野道夫「ワスレナグサ」 森鷗外「舞姫」	枕草子、大鏡韓非子 歌論、説話集 韓非子、史記ほか漢代の文章	レポート発表 夏目漱石の文章 翻訳文字、文体について
10月	鷺田清一「顔を差したすというこ と」 リービ英雄「ある〈共生〉の経験 から」	平家物語 唐代の文章 増鏡、太平記	中間発表 第2回
11月	山崎正和「越えてきた者の記録」	唐詩 近世随筆、小説 宋代の文章(新法・旧法の政治家)	中間発表 第3回
12月	中村雄二郎「文化のダイナミズム」	佛論	レポート作成
1月	身体の二重性	日本漢文	学年末レポート作成
2月			
3月			

※教材は生徒の希望を取り入れ
つつ選択した。主なもののみ
掲載している。

3 レポートについて（夏休み課題 読書レポート）

※生徒配布資料

2007. 7. 12

1 年生国語 夏休み課題 読書レポートについて

課題内容

関心のあるテーマについて書籍を通して調査・考察する。

〈具体的には〉

- ・ 読書リストの中からテーマに即したものを1冊以上選び、その本を中心に、レポートを作成する。〈『こころ』は2年現代文の授業で扱うので除く〉
- ・ 関連するテーマの本（リスト以外でもよい）をもう1冊以上読んで、考察に加える。内容は、文学以外でもよい。
- ・ 1,200字（400字詰め原稿用紙3枚）以上のレポートを作成する。
A4またはB5サイズの前稿用紙で提出する（B5の方が望ましい）。
手書きのこと。ワープロ原稿不可。
- ・ インターネットを使用してもよいが、本としては数えない。
引用であることとURLを必ず明記すること。
- ・ レポート作成にあたっては、特に、引用の仕方などに気をつけること。注意事項参照のこと。
- ・ 必ず“売り”（重きを置きたいこと、ぜひ紹介したいこと）の部分を作る。
- ・ 2学期初めに行うクラス発表の際に使用するプレゼンテーション用資料を添えて提出する。（掲示用ポスター、配布プリント原稿など）印刷して配布したいものはサイズ、字の濃さ等注意すること。鉛筆書きはうまく印刷されません。

提出 9月3日 週番が出席番号順に集めて国語科に持って来る。

※クラス発表のために、発表用原稿メモを作っておくようにしてください。

発表時間は1人3分です。

〈その他〉

国語科では、テーマに即した多読を通しての読解力・思考力・表現力の向上を目指しています。1年次のテーマは「歴史のうねりと社会」で、年度末には1年間の授業を通して学習した作品・作者について、読解・考察を加えた、1年間の学習の総まとめとしてのレポート作成を予定しています。今のうちから、どんな作品・作者を選ぶか、ということも念頭に置いておくとよいでしょう。

3 レポートについて（学年末レポート）

※生徒配布資料

2006. 11. 28

学年末 レポートについて

国語科

学年末には、今年のテーマ「歴史のうねりと社会」に即したレポートを、作成・提出してもらいます。夏休みレポートで学習したことを生かして、よりよいレポートの作成を目指してください。

課題内容

1年間の授業を通して学習した作品・作者についての読書レポート

注 意

現代文・古文・漢文（含、大学の先生の授業）の授業の中で関心を持ったもの、あるいはそこから触発されたものからテーマを選ぶ。

②①で決めたテーマに即した本を2冊以上読み、調査・考察を加え、レポートを作成する。（今回は読書リストの本でなくてもよい）

例 ・『大鏡』における藤原道長の造形

・志賀直哉の作品世界

・司馬遼太郎の歴史小説の特徴

今回も、必ず「売り」の部分（重きを置きたいこと、ぜひ紹介したいこと）を作る。

資料 プレゼン資料として教室で見せられるものを一部作成する。

字 数

400×5～7枚。縦書き、手書きとする。

提 出

2月18日（月） 16：00

週番が出席番号順にまとめて、国語科の教員のところまで持ってくる。

発 表

2月21日（木）の授業の際に、クラス内でのレポート発表を行う予定です。

各自、発表用原稿メモを作っておくようにしてください。発表時間は1人3分です。

（レポートは、18日に一旦提出したら、21日当日まで返却しません。必要があれば、各自コピーを取った上で提出してください。）

3 レポートについて (生徒 テーマ一覧)

1年 教養基礎 国語学年レポート (※ 空欄は未提出等によるもの)

2006.3

蘭組

1	『奥の細道』の謎解き
2	竹取物語
3	三島由紀夫の人生の影を探る
4	
5	よきリーダーとは何か～項羽と劉邦から～
6	万葉集～その歴史的価値と二人の悲劇の皇子
7	滝沢馬琴の思想の世界
8	メラネシア・ビジン
9	孤独が作った個人主義
10	古代中国と自殺
11	孟子と荀子について
12	荘子の思想から現代社会を見る
13	三国志について
14	樋口一葉の世界観
15	クローンについて
16	平安時代の生活
17	武士の心持ちとはどういうものか～平家物語より～
18	芥川龍之介『羅生門』について
19	クローンの真実
20	ケルトとアフリカの説話
21	古典に親しむ
22	うまい時間の使い方
23	「下人の行方とは」～『羅生門』より
24	時代の変遷と女性の活躍
25	『伊勢物語』と和歌について
26	私たちの日本語
27	太宰文学への評価の両極性
28	空海の決意のわけ
29	中原中也～詩の書かれた背景～
30	これからの哲学
31	源氏物語
32	失われた日本語
33	古典における女性
34	竹取物語～竹取の翁は何者か～
35	方丈記～鴨長明の哲学～
36	太宰治～『津軽』『人間失格』を通して見えること
37	
38	孔子の説く政治とそれが受けた批判
39	古事記から読む古代の愛のかたち
40	平安時代の恋の歌

菊組

1	義仲のまわりの人物
2	芥川龍之介と羅生門
3	平家物語から考える平清盛
4	フランス革命の代償
5	孔子とその弟子
6	クローンについて
7	小説や映画になったクローン
8	
9	「学ぶ」ということ
10	「武人」として生きた「漢」
11	太宰にとっての家とは
12	
13	クローン人間の反対理由
14	今昔物語集と宇治拾遺物語
15	高村光太郎の「道程」の世界
16	クローン人間をめぐって
17	福沢諭吉に迫る

菊組

18	科学技術はどこまで必要なのか
19	花の歌の移り変わり
20	クローン人間の是非について
21	クローン人間
22	僧正遍昭と素性法師
23	「武士道」から見る武士の精神
24	伊勢物語
25	朝日将軍と盛者必衰
26	平家物語
27	「宇治拾遺物語」で学んだこと
28	日本と西洋の復讐文化の違い
29	太宰治について
30	「武士道」について
31	百人一首について
32	中原中也と汚れちゃった悲しみに…
33	詩と人々のつながりについて
34	『万葉集』にみる日本人の心
35	万葉集と古今和歌集の違いはなぜ生まれたか
36	太宰治を考える
37	三国志について～魏の立場から赤壁の戦を語る～
38	老荘思想と孔子の思想
39	伴大納言と応天門の変『宇治拾遺物語』と『三代実録』
40	漢詩について
41	『土佐日記』『更級日記』から考える理想の日記像

梅組

1	太宰治『人間失格』―道化―
2	芥川龍之介の魅力について
3	芥川龍之介
4	『羅生門』と『今昔物語集』の比較考察
5	言葉に託した心の詩
6	第二次世界大戦中の作家について
7	荘子の思想と生き方
8	クローン生物の今
9	『鼻』の考察―今昔物語と比較して
10	エゴイズムと人
11	中原中也とダンテ
12	文章内容でみる説話と現代小説の違い
13	『竹取物語』の真実
14	太宰治
15	太宰治の第二期作品
16	蜻蛉日記の形成と背景
17	なぜ論語は有名なのか
18	太宰治の作品を読んで
19	外国の見る日本と日本の文化
20	万葉の恋
21	陰陽師
22	クローンの必要性とは
23	太宰治の考え方
24	太宰の作品における「寂しさ」の考察
25	芥川龍之介とその作品
26	古代の人々にとっての万葉集
27	芥川龍之介 生い立と作品の関連性
28	高村光太郎 詩と彫刻の出会い
29	諸葛孔明と三国時代
30	現代社会と教育について
31	在原業平とはどのような人物か
32	「赤い壁の戦」で興味を持った三国志
33	智恵子抄
34	孔子と論語
35	母語日本語を知る
36	なぜ生きているのか
37	学生運動について
38	安倍晴明と人々の心の闇
39	クローン人間の是非
40	孔子～語り継がれるその教え～
41	私の中に生きている三国志

4 読書ノート (生徒「今学期で一番人にすすめたい本」)

今学期で一番人にすすめたい本
 19年 5月 24日

著者・訳者
 レイチェル・カーソン (訳: 青樹繁一)

著者・訳者
 1年 R 級 氏名

読書期間
 5月 10日 ~ 5月 23日

出版社
 新潮社 (新潮文庫)

内容 (大意・大筋・要旨など、本の種類によって書き分ける)
 化学物質は人間の生活に不可欠な便利をもたらしたが、一方で自然に入まない負担もかかっている。本書は、1960年代はじめに自然破壊を世界で初めて告発した本として有名である。作者は、自然破壊は食物連鎖により最後には私達人間も滅ぼしかねない、破滅に至らない別の道を選択しようと言っている。ちなみに「沈黙の春」(原題: シレント・スプリング)は、鳥の死骸がや虫の音、動物の鳴き声さえも聞かなくなった春を指している。

推薦のことば
 科学は進歩し、私達に新しい知識を与えてくれる。沈黙の春は、今から40年以上も前に書かれた書物なのに、今となく、その指摘も化学物質の使用の代わりが提唱している手法も時代遅れと言われない。例えど、本書はアメリカでオースの7-11が生まれなくもない事実を指摘し、それを農薬のためだと推測している。しかし、現代の生物学ではワニの卵は解毒化した温度によって進種が決定されるといわれている。作者が農薬使用の代替案として提唱する天敵農法も、現代では生態系を崩すものとして批判されている。
 しかし、これらの事実が本書の値打を損ねるものではない。化学物質に過度に依存し、農業をそのまま推進していった方が良かったという人はいない。DDTなどの農薬の危険性を隠蔽する方が悪いとさえいわれる。自然破壊の危険をいじめるに訴えたことに意味があるのだ。現在の農業では、人体に累積の少ない農薬も限られ、有機肥料と化学肥料の適度な配合も模索している。沈黙の春は、その志が後世に歴史の価値のある書物である。石塚かほ 見本 2010.05.27 記念録 叩。

入手方法 (図書館で購入) 大学図書館で借りた 高校図書館で借りた 地域図書館で借りた 家族の本を読んだ その他 []
 ・読もうとした動機 : 地球温暖化と環境問題に興味があるから
 ・読書リストに (収録している) 載っていない

5 評価（調査項目）

生徒へのアンケート

2007. 3

1・2年生 教養基礎教科（科目） 態度に関する調査

お茶の水女子大学附属高等学校

本校では、高大連携事業の一端として、国語・数学・英語に教養基礎教科（科目）を設置しています。みなさんが、これらの教科（科目）の1年間の学習を通してどのような姿勢・力を身につけたかを聞きたいと思いますので、以下の項目に教えてください。

各教科の項目ごとに

- 1 あてはまる
- 2 ややあてはまる
- 3 あまりあてはまらない
- 4 あてはまらない

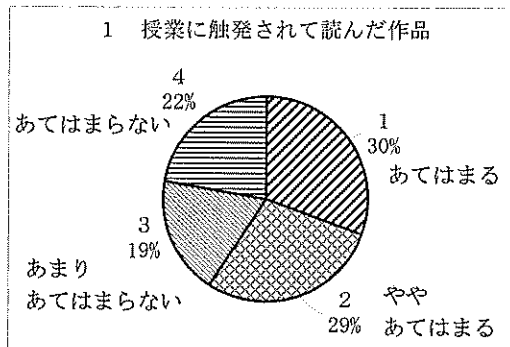
の4段階で回答し、別紙回答欄の該当数字に○をつけてください。

国語（全科目を通して）

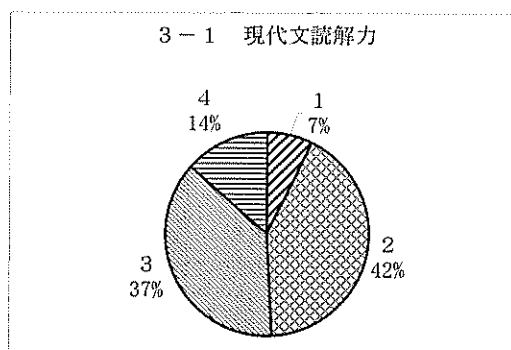
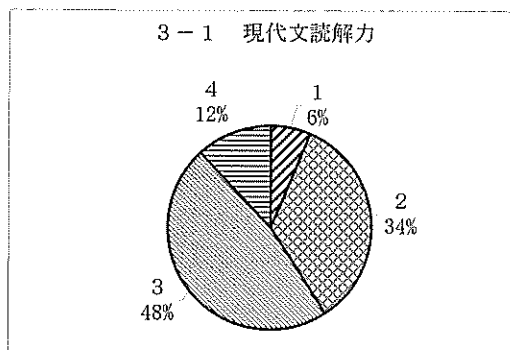
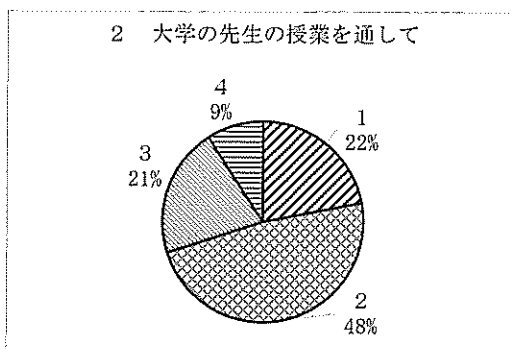
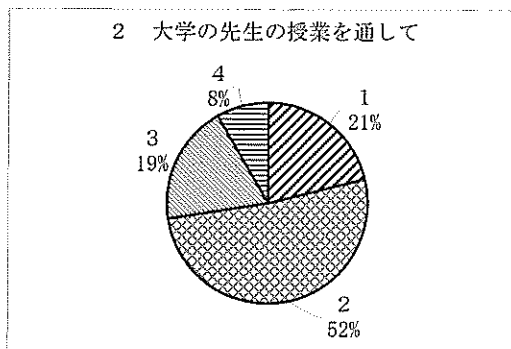
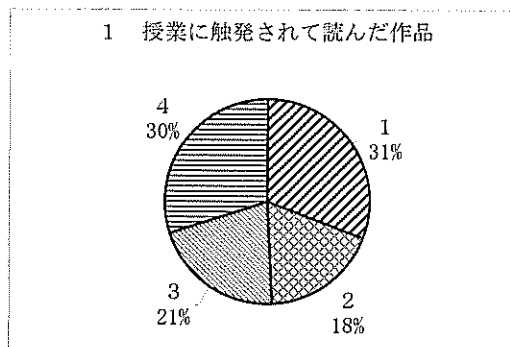
1. 授業に触発されて読んだ作品がある。
2. 授業を通して関心を持ったり理解が深まったりした。
3. - 1 現代文の読解力がついた。
- 2 古文 "
4. レポート作成等を通して調査・研究の力や文章表現力がついた。
5. レポート発表等を通して発表をしたり聞いたりする態度が身についた。
6. 思考力や表現力がついた。
7. （3年生）「文化」というテーマに沿って理解を進めることができた。
8. その他、どんな点がためになりましたか。自由に書いてください。

5 評価（生徒の回答 1～7）

1年

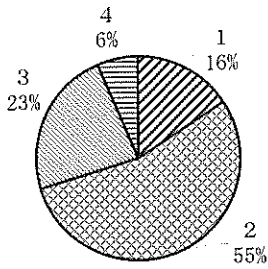


2年



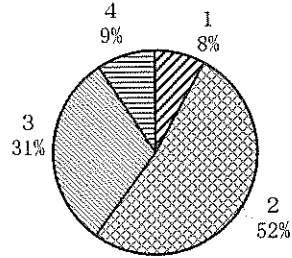
1年

3-2 古文読解力

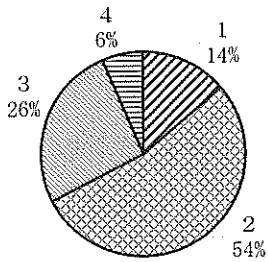


2年

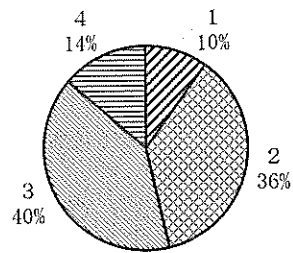
3-2 古文読解力



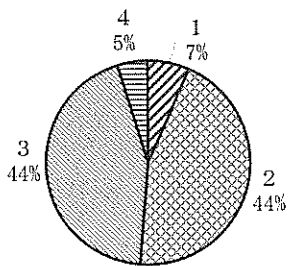
3-3 漢文読解力



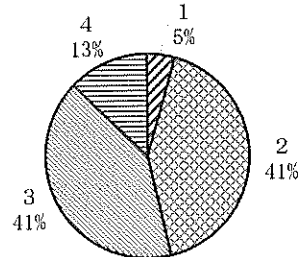
3-3 漢文読解力



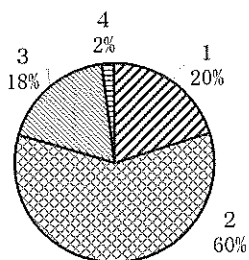
4 (古文・漢文) 時系列



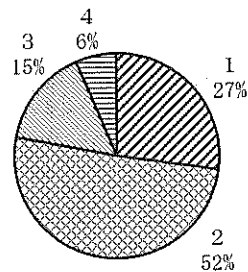
4 (古文・漢文) 時系列



5 レポート作成→調査・研究・文章表現力

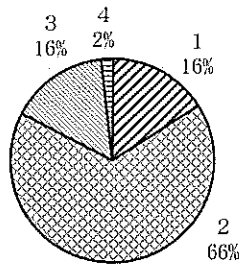


5 レポート作成→調査・研究・文章表現力



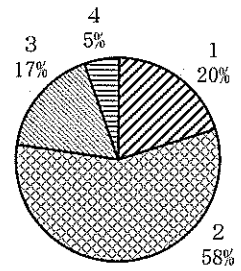
1年

6 レポート発表→発表・聞く力

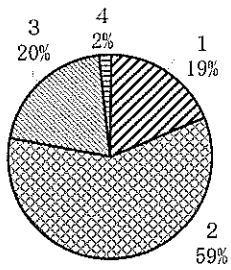


2年

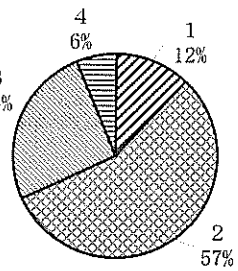
6 レポート発表→発表・聞く力



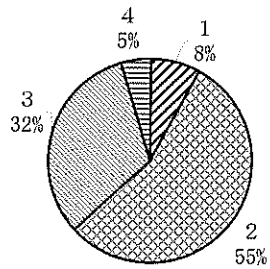
7 思考力・表現力



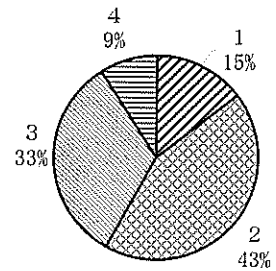
7 思考力・表現力



8 学年テーマに沿った理解



8 学年テーマに沿った理解



5 評価（生徒の回答「8 その他 ためになった点」）

【1年生】

- ・特にありません。
- ・歴史と文章の関係がわかった。
- ・レポートで相当文章力がついたと思います。
- ・レポートでまとめることによって、自分の知りたかったことが詳しく調べられたし、それ以上の知識や時代背景がわかった。
- ・授業だけでは習わない様々な歌や文章を知ることができた。
- ・物事を様々な視点から見られるようになった。
- ・レポート提出によって自分の興味を持ったことを詳しく知ることができて、より古文や漢文が好きになった。本をよく読むようになった。
- ・レポートによって、より読書の習慣が身についた。
- ・表現力やレポートの力がついた点。
- ・授業に触発するものに限定したレポートが課題となったから、普段は全く見向きもしない本をじっくりと読むことができ、様々なジャンルの本に対する意欲が増しました。
- ・古文など、今までなかなか手が出せなかった作品についても知ることができた。
- ・古文・漢文の予習の力をつけることができました。
- ・古文で当時の人の考え方が少しわかった。
- ・レポートをたくさん書いたので、まとめる力や形式的にやる力がついたと思います。
- ・普通の授業では聞けない深い話をたくさん聞いておもしろかった。興味があまりなかった分野も、聞いてみると面白かった。
- ・いろんな知識が身についた。国語に対する積極性が高まった。漢文・古文を含めて、いろんな本を読みたいと思うようになった。
- ・これほど楽しい国語の授業を受けられたのは初めてでした。
- ・大学の先生の授業はおもしろいと思ったし、前とは違った見方で、その教科について見られるようになった。
- ・レポート作成がすごく力になった。
- ・大学の先生の授業を受けて知識が増えた。
- ・レポート作成という課題は大変だったが、有意義であったと思う。
- ・レポートを作ったり、資料を作ったりして、相手にわかりやすい説明や発表を心がけることができた。
- ・レポート作成は、大学に行った時にずっとためになると思う。
- ・レポートの書き方について知ることができた。
- ・レポートや、その発表で深く知ることができた。

- ・レポート発表では、友達の研究力などを実感することができました。
- ・雑学(?)が増えました。
- ・時間がなくて本は読めなかったが、本を読みたいと思うようになった。
- ・万葉集や古今和歌集などの詩の読解を通した古文や昔の事に興味を持てた。
- ・専門の方の話聞くことで、文学作品自体を楽しむことができた。
- ・古典に対する興味が大幅に増えた。
- ・古文の文章の背景とかを知ることができて、面白かった。
- ・発表する時の態度、人にどうやったら分かってもらえるかということについて
- ・大学の先生の授業を含め、いろいろな面から文学を見ることができて、国語の楽しさを少し見つけた。
- ・大学の先生の授業を通して、いろいろな作品に触れることができた。
- ・大学の先生の話はおもしろかった。
- ・特になし 8名

【2年生】

- ・作品の歴史的背景
- ・自分でいろいろ調べて文学を知れた。
- ・今までに知らなかった知識を知ることができた。レポートによって速く書く力が少しついたかもしれない。
- ・授業では触れられない、作品の深い部分を知り、その作品に大きな興味を持つことができた。
- ・他のクラスのレポート発表も聞くことができた。
- ・レポート作成の力が身についたと思う。
- ・たくさん文章を書いたので、長い文章が書けるようになった。また、作文とレポートの違いを痛感した。
大学の先生のお話はとても面白かった。有名な日本文学を読んでみようと思うきっかけになった。
- ・大学の先生の講義を聴くことができた。
- ・古文を身近に感じた。
- ・レポートを(なかば)強制されてやったので、書く力はついたと思う。
- ・一つの話の深い理解。
- ・いろいろな優れた作品をわかりやすく読むことができた。
- ・小論文についてよく思索するきっかけとなりました。
- ・日常生活では見なかったであろう作品をはじめは義務であれ、触れることができたのは、大きな有為点だったと思う。
- ・やはり文章力がついたと思う。
- ・友達発表を聞くことで、いろいろな視点があるということを改めて感じた。
- ・漢字プリント
- ・国語に興味を持てるようになった。

- ・レポート発表は、クラスメイトの作品も知ることができて良かった。「たけくらべ」の授業が一番ためになった。
- ・いろいろな作品に触れることのできた点。また、大学の先生の深い見解を聴くことができた事。
- ・人の考え方を知ること、物事への視野が広がった。
- ・作品について深く知ることができ、良かった。 ・少し違った視点で、作品を見ることができた。
- ・大学の先生の話は本当におもしろかった。「方丈記」が一番好きでした。
- ・漢文で、文法等だけではなく、内容にしっかり触れることで、様々な考え方が身についた。

〈質疑応答〉

発表の後、主に次のような質疑応答があった。

- ・(お茶の水女子大学への進学制度との関連について) 高校在学中にどの単位を取れば、という縛りがあるのか。
 - 教養基礎「国語」Ⅰ、教養基礎「国語」Ⅱの単位を修得していることは必須で、また3年次に、教養基礎科目を4単位以上修得している必要がある。国英数どの科目でという指定はない。
- ・大学の先生の授業は、高校生にとって退屈というイメージがあるが、「生徒に評判がよく、楽しみにしている」ということであるのに興味を持った。大学の授業を見せるという感じなのか、それとも高校生向けの内容で授業をしてくださるのか。
 - それぞれの先生がよく準備をして臨んでくださり、また毎年改善してくださっている。授業は、高校生向けの内容であるが、教員である私も、毎回興味深く拝聴している。
- ・世界史Aは1年次の履修ではないのか
 - 本校では2年次の履修にしている。

(日本史や世界史を学習していた方が、時系列の古典の学習も理解しやすいのではないかというご主旨での質問)
- ・3年次の漢文の授業について
 - 3年古典読書B(漢文)担当の本校渡辺教諭がその場で対応した。

【まとめと課題】

発表したことにより、本校の高大連携の取り組みについて関心を抱いていただけたようである。また、私自身も発表に際して整理することにより、本プログラムを客観的に見直すことができた。

生徒の力を伸ばすのに有効なカリキュラムであるという認識は当初から変わらないが、高校国語科の専任教員が3人であるのに対し、行っている内容が多岐にわたっているため、マンパワーの不足は否めない。今後は、質を大きく落とさずに、省力化できる部分は省力化していくことも必要であろう。

また、本プログラムの成果は、例えば業者の模擬試験などの国語の試験結果にも反映されるはずだと

私自身は考えており、それらの検証も今後進めていく予定である。